Vivaおかざき！！日本語教育事業報告会

"Viva Okazaki Annual Reporting Event"

日本語教室の可能性をひろげよう！

How to expand possibilities of Japanese class.

ー「つながる」から「ひろがる」へ ー

しゅさい
主催：Vivaおかざき！！

こうえん　おかざきし
後援：岡崎市

へいせい　ねんど　ぶんかちょう　せいかつしゃ　がいこくじん　にほんごきょういくじぎょう
平成28年度文化庁「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

1

団体概要

だんたい　がいよう

活動目的

Vivaおかざき！！は、「日本人」や「外国人」という区別なく、同じ地域に暮らす一員として、ことばや文化・習慣の違いを理解し、お互いに助け合っていける関係づくりを行うことで、誰もが「住んでよかった。Viva（＝バンザイ）おかざき！！」と思える地域社会を目指しています。

団体概要

設立年月日　2010年９月２３日

メンバー

代表　長尾　晴香（Nagao Haruka)

理事　岸本　サンドラ（Kishimoto Sandra)

理事　鈴木　美帆　（Suzuki Miho)

監事　黒川　市郎（Kurokawa Ichiro)

日本語は読めなくても、雰囲気で買い物をしていたよ。
ある日、おいしいツナ缶を見つけて、みんなにオス
したら、実はキャットフードだって
かってビック

ないわ。

言語、文化・習慣の違いで苦労している現実

保育園の遠足の日、お弁当を持ってきてない子がいて、
後でお母さんに聞いたら、「お便りのふりがなで読み方は
分かったけど、“オベントウ”が何か分からない」と言われたよ

じぎょう ないよう
事業内容

1 外国人住民支援事業
（防災・教育セミナー、生活に役立つ日本語教室 など）

2 外国にルーツを持つ親子サポート事業
（親子向け日本語教室、おやとこどもの交流会 など）

3 多文化共生理解の推進のための交流事業
（地域行事参加、多文化理解イベント など）

4 多文化コーディネーター育成事業
（災害時支援に役立つ日本語教室 など）

2

にほんご　きょういく　じぎょう

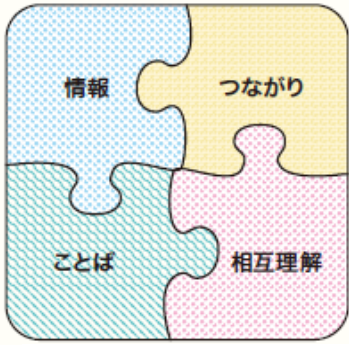
日本語教育事業

◆2015年 「市民が主役！参加型ワークショップを通した体制整備事業1.0」の実施

文化庁 「『生活者としての外国人』のための日本語教育事業」）

日本語教室は、外国人住民と日本人住民にとって、文化・情報に触れる相互理解の場

“地域の多文化共生の出発点であり、育むプラットフォーム（基盤）”



◆2016年コンセプト

「外国人住民と地域をつなげるプラットフォームとしての日本語教育体制づくり」

Viva！！つながる日本語プロジェクト2．0 「多文化共生のプラットフォームとしての日本語教育体制整備事業」

Viva！！つながる日本語プロジェクト2．０「多文化共生のプラットフォームとしての日本語教育体制整備事業」

日本語教室からの多文化共生のための地域づくりと外国人住民と日本人住民がともに地域参加できる環境づくりのための日本語教育体制整備事業を行う。

【取組1】 参加型ワークショップとOJTによる日本語教育の担い手育成

・参加者：日本人市民、外国人市民
・日本語教育の担い手の育成
・4回WS＋3回日本語教室でのOJT

【取組2】暮らしに役立つ実践型日本語教室（60時間）

・参加者：外国人市民、日本人市民
・支援に役立つ日本語教室 （赤十字と連携）
・よみかき教室

【取組3】 Viva!!つながるセミナー（2回/年）

・参加者：一般市民、行政関係者、学生など
・地域と事業が「つながる」いい取組を知り、多文化共生のため日本語教室の役割について考える

【取組4】「つながる」日本語教育の情報発信及びツール作成

・成果報告会の開催（1回／年）
・取組をまとめた冊子作製
・ブログ・SNS・記録映像等による情報発信

【取組1】 日本語教育の担い手育成

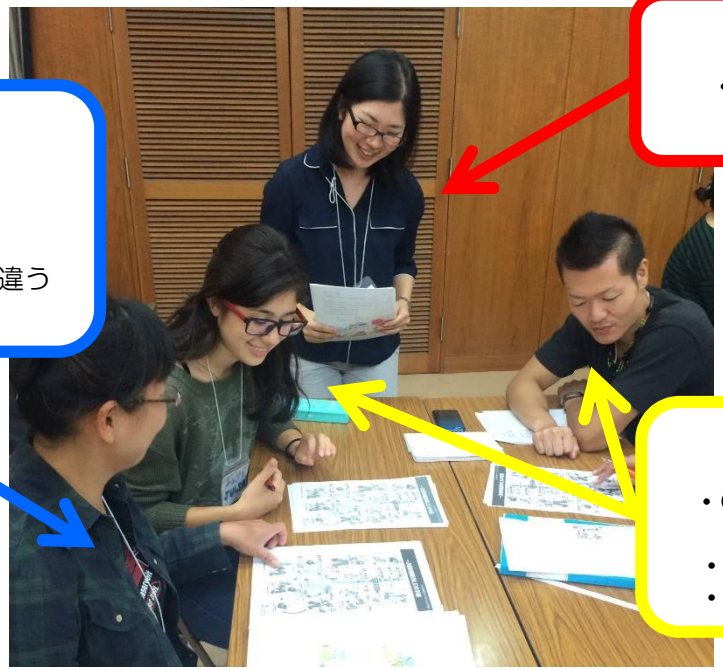
日本語教育に取組ボランティアの多文化共生・国際理解の向上を図り、外国人住民を対等な市民として認め寄り添いながら日本語学習支援をできる人材の育成をする。

◆日本語パートナー（活動・会話補助ボランティア）

・対話を通して、外国人住民がリアリティある日本語を学ぶ。

・地域についての情報交換や、地域の住民として交流を持つ。

・日本語教育の担い手としてだけでなく、外国人住民を理解し、地域で支える存在になる。



日本語講師

- 授業の進行
- 全体コーディネート

学習者

- 国籍、日本語のレベルもさまざま
- 日本語で言えない ≠ 知識がない
- 各国の当たり前と日本の当たり前は違う

日本語パートナー

- ○学習者と一緒に学ぶパートナー
  ×教える先生
- 学習者が言いたい事を日本語にするサポート
- 地域住民として交流

【取組1】 日本語教育の担い手育成

日本語教育に取組ボランティアの多文化共生・国際理解の向上を図り、外国人住民を対等な市民として認め寄り添いながら日本語学習支援をできる人材の育成をする。

【実施内容】

回	日程	時間	内容	参加人数
1	5/29	オリエンテーション 10:00～12:00	・目的確認 ・OJTの学ぶべき視点・心構え	21名
2	6/12	日本語教室13:30～16:30 ふりかえり　16:30～17:30	＜プレOJT(On the Job Training)＞ ・実際に日本語教室に参加しよう	20名
3	6/19	ワークショップ　10:00～12:00	「コミュニケーション・聴く力」 【講師】若林かおり氏　(株)ナチュラル・コーチ	12名
4	6/26	ワークショップ　10:00～12:00	「発話を引き出す教室活動」 【講師】千葉月香氏　名古屋大学大学院	13名
5	6/26 7/3	日本語教室13:30～16:30 ふりかえり　16:30～17:30	実践OJT① ・日本語教室で活動してみよう	13名 9名
6	7/17 7/24	日本語教室13:30～16:30 ふりかえり　16:30～17:30	実践OJT② ・日本語教室で活動してみよう	7名 11名
7	7/31	ワークショップ　10:00～12:00	・全体ふりかえり ・これからの行動宣言	13名

【参加人数】 異なり人数： 26名

◇参加者属性

・既存の日本語教室ボランティア

・新規ボランティア

・日本語教師

・大学生、大学職員

【プログラムのポイント】

①ワークショップによる基礎知識の獲得

・コーチングの姿勢を学ぶ

・目指す日本語パートナー像の共有

②OJTによる実践活動

・座学ではない学びの場

・ワークショップでの学びをすぐ実践につなげる

【取組1】 日本語教育の担い手育成

日本語教育に取組ボランティアの多文化共生・国際理解の向上を図り、外国人住民を対等な市民として認め寄り添いながら日本語学習支援をできる人材の育成をする。

【ふりかえり意見】

①気づいた事・大切だと思った事

・学習者さんの知的レベルがとても高いので、自分も教えてもらう事が多いです。

②よかった事

・発表できるかを心配していたけれど、最後には学習者さんが自信を持ってくれていた。

③改善提案

・進行時間がよくわからなかった。特に発表するためのアドバイスや段取りの仕方がむずかしかった。

④その他

・学習者さんがこんなに生き生きとしている日本語教室は見たことがありませんでした。

Vivaおかざき！！としての成果と課題

・多くの方に参加をしてもらえて、Vivaおかざき！！の目指す日本語教室の形を伝える機会をつくることができた。

・養成講座があることで、初めて参加する人も参加しやすく、疑問に思っていることを聞ける場になった。

・ワークショップと日本語教室での活動と内容が盛りだくさんで、参加者の負担が大きかった。OJTではない日の参加者が少なかった。

【取組2】暮らしに役立つ日本語教室

①支援に役立つ日本語教室

【実施時】2016年6月5日
～8月28日（全10回）

13:30～16:30

【テーマ】救命救急（赤十字による出前講座）
避難所・避難方法
支援者としてできる事を考えよう

【場所】岡崎市図書館交流プラザりぶら

岡崎市中央総合公園

【参加人数（異なり人数）】

・学　習　者　：　23名（70%出席　8名）

・日本語パートナー：26名（50%出席8名）

◇参加者国籍

ブラジル、フィリピン、ペルー、アルゼンチン
中国、ベトナム、インドネシア、フランス

【取組2】暮らしに役立つ日本語教室

①支援に役立つ日本語教室

【発展活動】

①愛知県・岡崎市総合防災訓練ブース出展

②防災交流会(ABO、岡崎中国人協会、OFC)

【参加者の声】

◇学習者

・教科書からではなく、普段の生活から文化やことばを学べるところがいい。
・日本語パートナーさんは優しくて、分からないところを上手く説明してくれた。
・授業の内容はすごく面白くて、役に立った。

◇日本語パートナー

・外国人に対する意識がすごく変わった。とても距離が近くなった気がする。
・求められるスキル・資質をこれからも考える機会を持ちたい。

Vivaおかざき！！としての成果と課題

・日本赤十字社による講座や、愛知県・岡崎市総合防災訓練への参加など、実践的な活動ができた。
・3つの外国人コミュニティー共催の防災交流会など、教室の外の活動にも発展するキッカケをつくることができた。
・防災に高い関心を持つ外国人市民を、地域で活躍できる人材として育成する重要性を改めて認識した。⇒来年は講座＋宿泊避難所訓練

【取組2】 暮らしに役立つ日本語教室

②生活に役立つよみかき教室（DST）

【実施時】 2016年8月28日
～11月20日（全12回）
13：30～15：30

【テーマ】 作文とオリジナルの映像作品の作成（※DST）

【場所】 岡崎市図書館交流プラザりぶら

【参加人数（異なり人数）】

・学 習 者 ： 17名 （作品完成5作品）

・日本語パートナー：15名

・上映会参加者：37名

◇参加者国籍

ブラジル、ペルー、フランス、中国、ベトナム

※DST（デジタル・ストーリーテーリング）
アメリカで生まれ、世界に広まっている社会教育活動の1つで、
参加者が体験を語り、自分物語のフォトビデオをつくります。

【基本構成】

①対話・作文づくり …想いを文にする
②録音 …自分の日本語を聞く
③映像編集 …自己表現
④作品上映会 …社会への発信

【取組2】 暮らしに役立つ日本語教室

②生活に役立つよみかき教室（DST）

【参加者の声】

◇学習者

・文章を書くのはむずかしかったけれど、たくさん日本語を勉強できた。

・たくさんの人の前で話をして、前より自信が持てるようになった。

◇日本語パートナー

・すごく上手な作品を作ってきて、ビックリしました。

・途中参加してきた学習者の対応に困ってしまった。

Vivaおかざき！！としての成果と課題

・DSTを活用した新しいよみかき教室に挑戦し、日本語学習だけではなく、外国人住民の自己表現の場をつくることができた。

・作品をつくっていく中で、今まで知らなかった学習者の考え方や人生の話に触れる機会になり、相互理解が深まった。

・継続的に参加をしないと作品を完成させるのがむずかしく、後半は個々で進捗状況が違うためにグループでの活動がむずかしかった。

【日時】 2017年2月12日～3月5日（全4回）
13:30～15:30（2時間）

※2月19日のみ13:30～16:30（3時間）で
岡崎市民病院へ見学予定。

【取組3】Vivaつながるセミナー

日本語教育と地域との協働に関する取組の優良事例を知り、外国人市民と日本人市民がともに地域参加できる環境づくりのために日本語教室が地域で果たすべき役割について考え他分野（まちづくり、アート等）のノウハウを日本語教育に活かす。

①まちづくりから学ぼう★日本語教室と地域のつなぎ方

【日時】2016年10月30日（日） 9:30～11:30

【講師】天野裕氏（NPO法人岡崎まち育てセンター・りた）

【内容】・活動紹介
・具体的な手法紹介
・感想共有

【参加人数】 21名

◇参加者属性

・日本語教室ボランティア（他団体含む）
・大学生、大学職員
・行政職員（愛知県）
・その他

【参加者の声】

・協働先の巻き込み方として、“してもらう・動いてもらう”ではなくて“一緒に動く仲間”にしていくことが大切だと感じた。

・外国人支援ではなく、外国の人達の自発的な活動を掘り起こすことが重要だと思った。

【取組3】Vivaつながるセミナー

日本語教育と地域との協働に関する取組の優良事例を知り、外国人市民と日本人市民がともに地域参加できる環境づくりのために日本語教室が地域で果たすべき役割について考え他分野（まちづくり、アート等）のノウハウを日本語教育に活かす。

②日本語教育と地域のつながりを生むプログラムデザイン

【日時】2016年12月11日（日） 13:30～17:30

【講師】中脇健児 氏（場とコトLAB・まちづくり）

【内容】・地域を巻き込んだまちづくり事例紹介
・つながる・連携のコツ

【参加者】18名

◇参加者属性

・日本語教室ボランティア（他団体含む）
・国際交流協会職員　・行政職員（愛知県）　・その他

【参加者の声】

・まちづくりの事例が面白く、非常に参考になりました。日本人も外国人も楽しめるような”つながり”を考えていきたいと思った。

・できない、よくない、足りないと思っていることは、視点を変えればいいということに気づけた。

Vivaおかざき！！としての成果と課題

・まちづくりの視点から、地域との「協働」・「つながる」をキーワードに、日本語教育の関係者に新しい視点をあたえる機会にできた。

・日本語教育への活かし方を考えるステップを加えてほしいという要望があった。 ⇒ 継続的に考える機会をつくっていく必要性を感じた。

【取組4】「つながる」日本語教育の情報発信及びツール作成

本事業の成果を発信するとともに、外国人市民の地域参加の重要性を伝え、日本語教室を起点とした多文化共生のための地域づくりについての理解促進を行う。

1）成果報告会の開催

・日本語教室の可能性をひろげよう！ ―「つながる」から「ひろがる」へ―

【日時】2017年1月22日（日） 14:30～17:30

【場所】東部地域交流センターむらさきかん第6活動室

【内容】・ 事業報告
・ポスターセッション
・ワークショップ

2）取組をまとめた冊子作製

・2月完成予定

3）地域への情報発信

■愛知県・岡崎市総合防災訓練ブース出展（2016年）

・「支援に役立つ日本語教室」の学習者5名が参加

■DST作品上映会（子ども・大人合同開催）

・会場として使用している施設全体のイベントで上映会を実施。

・一般参加者を含め37名が上映会に参加。

【取組4】「つながる」日本語教育の情報発信及びツール作成

本事業の成果を発信するとともに、外国人市民の地域参加の重要性を伝え、日本語教室を起点とした多文化共生のための地域づくりについての理解促進を行う。

■情報発信

・SNS（団体ブログ、facebook）の活用

（H28実績　日本語教育事業関係のブログ掲載数…　51件

facebookページ数：4つ　…生活に役立つ日本語教室

生活に役立つよみかき教室

支援に役立つ日本語教室

病院に役立つ日本語教室

・新聞掲載　中日新聞西三河版（2016年6月6日）

「日本語パートナー養成講座」

草の根 取材録

Vivaおかざき川岡崎市

外国人の地域交流支援

■映像による記録作成

愛知産業大学の学生による記録映像

ご清聴ありがとうございました

VIVA
おかざき!!